

# Independent

No.2

美瑛町すだちの教室通信

5月号

令和6年4月19日 発行



## すだちの教室では、どんなことをするの？

### 〇 6区分27項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

北海道立特別支援教育センター「特別支援教育担任のハンドブック」より抜粋。

すだちの教室では、自立活動を行っています。一人一人が自分の特性や個性を理解し、「強み」を生かしたり、「苦手」を和らげたりしながら、人生をより豊かに、より生活しやすくするためのスキルを学んでいきます。活動を通して、まずは「自己理解」(得意なことや苦手なことは何か、得意を伸ばし、苦手を補う手立てはどうするか 等)を深め、「自己選択」や「自己コントロール」の力を育てていきます。

活動の内容は、「6区分 27項目」(左図参照)の中から、それぞれのニーズに応じた内容を選択し、行っていきます。例えば、視覚から情報を得ることが得意な場合は、メモ等を有効に活用したり、自分の考えを発信することに躊躇がある場合は、場面に応じたコミュニケーションの方法を実際の場面を想定しながら行ったりすることが考えられます。

また、すだちの教室では、一人一人の「困り感」に寄り添い、よりよく生活していくためにはどうしたらよいかを共に考えていく「作戦会議の場」と捉え、実践しています。

スケッチブックを有効に活用しながら、会話の内容や思考の流れが振り返られるよう「見える化」を意識したり、さまざまなゲームを用いながら、柔らかな雰囲気の中で会話をすることで、他者とコミュニケーションをとることの心地よさや楽しさを感じられるよう取り組んだりしています。

このように、様々な手立てを用いながら、「できた」「わかった」「言えた」がたくさん積み重なっていくよう、一緒に活動しています。

### 〈すだちの教室 5月の通級日〉

